

富山県花と緑の祭典2025

第53回

花と緑の大会

とき 令和7年11月13日(木)

ところ 富山県民会館

みずやりは おはなとかいわ たのしむじかん



標語
氷見市立上庄小学校 1年 粟屋 太陽
画
黒部市立明峰中学校 1年 沖村 優花

令和7年度 花と緑のコンクール 最優秀賞

公益財団法人 花と緑の銀行

富山県花と緑の祭典2025

第53回 花と緑の大会次第

I	開 会	
II	主催者（理事長）あいさつ	
III	花と緑の功労者表彰1~5
1	富山県環境部門県土美化分野緑花功労表彰	
2	公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰	
IV	花と緑のコンクール表彰	
1	花と緑のスター原画コンクール6~8
2	花と緑の標語コンクール9
3	富山県花のまちづくりコンクール	
(1)	プレミアム花壇10~11
(2)	一般花壇12~13
(3)	花の道14~15
(4)	学校花壇16~17
V	来賓祝辞	
	富山県議会議長	
	公益社団法人 とやま緑化推進機構理事長	
VI	来賓紹介	
VII	記念写真	
	(休 懇)	
VIII	花と緑の講演会18~19
	演題 「健康寿命を延ばす植物とのかかわり方」	
	講師 神戸学院大学 現代社会学部 現代社会学科	
	講師 菊川 裕幸 氏	
IX	閉 会	

※同時開催 令和7年度富山県花と緑のコンクール入賞作品及び花壇写真展示

Ⅲ 花と緑の功労者表彰

1 富山県環境部門県土美化分野緑花功労表彰

なかしま さちこ
中島 幸子 (富山市)

平成 16 年に「花と緑の銀行富山支店古里地方銀行」のグリーンキーパーに就任し、平成 24 年からは頭取として、長年にわたり緑花活動に取り組み、花と緑の推進に大きく貢献している。

また、活動拠点である古里公民館を中心に継続的な緑花活動を行い、校区内 5 箇所の各公民館への花苗の配布や、地元自治会と連携した花苗の植え付けや水やり、除草等の維持管理などの緑花活動を通じた地域間交流を図り、地域コミュニティを活性化するなど、地域緑花・普及啓発にも貢献している。

かわはら としあき
川原 俊昭 (小矢部市)

平成 24 年に「花と緑の銀行小矢部支店北蟹谷地方銀行」の頭取に就任し、長年にわたり緑花活動に取り組み、花と緑の推進に大きく貢献している。

また、活動拠点である北蟹谷地区を中心に継続的な緑花活動を行い、緑花推進計画の策定や、地区公民館花壇の拡充や整備、グリーンキーパーへの技術指導にも尽力し、花壇や指導者のレベル向上も図っている。その結果、同地区の緑花団体では、継続的に県の花のまちづくりコンクールへ応募し、優秀な成績を収めるなど、地域緑花・普及啓発にも貢献している。

すぎはら えん
杉原こども園 (富山市)

昭和 31 年の設立以降、杉原こども園内にて長年にわたり緑花活動に取り組み、花と緑の推進に大きく貢献している。

また、園内の花壇やプランターでは、花の植え付けや維持管理に加え、地域住民や企業と連携した緑花活動なども行っており、四季折々、様々な緑花活動を通じ、花を育てる喜びや責任感、生命の尊さや自然との共生意識を感じ、豊かな感性と社会性を育む教育的な場を醸成するなど、地域緑花・普及啓発にも貢献している。

2 公益財団法人花と緑の銀行理事長表彰

個人の部

たにぐち るりこ
谷口 ルリ子 (富山市)

平成 15 年に牧地方銀行の頭取、平成 18 年からグリーンキーパーに就任して以来、22 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である牧公民館周辺の花壇の整備・維持管理に取り組み、校区の拠点花壇として住民に花と緑に親しむ場を提供し続けている。

つきやす こうぞう
月安 幸三 (高岡市)

平成 12 年に木津地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、25 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

市から配布される苗を地域の花壇に配布する活動のほか、一年を通じてやぶなみ駅前花壇の維持管理に努めている。

きたせ のぼる
北世 昇 (高岡市)

平成 14 年に二上地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、23 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である二上公民館周辺花壇などの植え付け指導や育苗管理を行うほか、二上地区環境美化推進委員に所属し、高岡環状線（大学前）の松葉菊花壇の管理を行うなど、市内の花と緑の普及活動も精力的に続けている。

いしごろ はじめ
石黒 肇 (高岡市)

平成 15 年に戸出地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、22 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である是戸公民館の花壇の維持管理に努めるほか、地区内のグリーンキーパーの先頭に立って作業を行い、リーダー的な立場で尽力しており、緑花関係団体での人望が厚い。

かなもり みつしげ
金森 光重 (射水市)

平成 25 年に橋下条地方銀行のグリーンキーパー、平成 30 年からは頭取に就任、12 年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

活動拠点である歌の森運動公園西側広場花壇などの活動には率先して参加し、地域のグリーンキーパーの取りまとめを行うなど、精力的に活動を続けている。

くさざき やすこ
草崎 康子 (射水市)

平成 22 年に大島地方銀行のグリーンキーパーに就任、15 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である大島中央公園花壇において、長年にわたり花壇づくりに率先して取り組んでいる。

さわい あきお
澤井 昭雄 (射水市)

平成 24 年に櫛田地方銀行のグリーンキーパー、令和 4 年からは頭取に就任、13 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である櫛田の里 Flower Road 花壇において、長年にわたり花壇づくりに率先して取り組んでいる。

まつばら ほづみ
松原 穂積 (射水市)

平成 22 年に放生津地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、15 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である放生津立町公園花壇や内川緑地において、花壇づくりや緑化に率先して取り組んでいる。

たなか せいじ
田中 清二 (魚津市)

平成 22 年に天神地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、15 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である木下新公民館前花壇では植栽のほか、地方銀行の活動日以外においても灌水や除草等の維持管理に日々率先して取り組み、地域の緑化推進に尽力している。

しま みつこ
島 光子 (魚津市)

平成 24 年に経田地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、13 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である経田駅前置県百年花壇の植栽や維持管理を務めるほか、地方銀行の活動日以外においても灌水や除草等の維持管理に日々率先して取り組み、地域の緑化推進に尽力している。

おおた まさとし
太田 正敏 (氷見市)

平成 28 年に朝日丘 1 区地方銀行のグリーンキーパーに、令和 4 年からは頭取として 8 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である松田江路傍花壇などでは、地域住民有志と交代で灌水を行うなど、効率的かつ持続可能な緑化活動を行っている。

ぞう あきこ
藏 章子 (氷見市)

平成 28 年に神代地方銀行の頭取に就任して以来、9 年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

地域の自治会や老人会に、花苗や球根を配布し、緑花活動を通じて地域に貢献している。

はやし そとみ
林 外美 (氷見市)

平成 28 年に仏生寺地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、9 年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

地域の自治会や公民館に、花苗や球根を配布し、緑花活動を通じて地域に貢献している。

えいだ ゆみこ
永田 由美子 (滑川市)

平成 3 年に山加積地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、34 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である山加積公民館花壇などの植栽や維持管理に努め、地域に尽力している。

せんさき みすず
千先 美鈴 (滑川市)

平成 14 年に浜加積地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、23 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である浜加積公民館花壇などの植栽や維持管理のほか、平成 30 年から市の「花と緑の推進協議会」の会長を務め、緑花活動を通じて地域に貢献している。

どい たもつ
土肥 保 (滑川市)

平成 17 年に山加積地方銀行の頭取に就任して以来、20 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である山加積公民館花壇などの植栽や維持管理に努め、地域に尽力している。

ながさか じゅんこ
長坂 順子 (黒部市)

平成 22 年に生地地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、15 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である生地名水公園花壇の植栽や維持管理に努めるほか、地域の自治会や公民館に、花苗や球根を配布し、緑花活動を通じて地域に貢献している。

たなべ かずこ
田邊 和子 (砺波市)

平成 17 年に南般若地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、20 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である南般若かがやき花壇では、植栽や栽培管理のリーダー的存在として花壇の拡充整備や維持管理に尽力するなど、地域の緑化推進に努めている。

のむら りえこ
野村 利江子 (小矢部市)

平成 15 年に正得地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、22 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である正得コミュニティ広場周辺花壇などでは、維持管理のほかこども達と一緒に花苗の植え付けを行うなど、こども達が花と緑に親しむ機会の創出にも努めている。

さかい さだえ
酒井 貞枝 (小矢部市)

平成 13 年にグリーンキーパーに就任して以来、24 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献しており、「野ざくの会」のグリーンキーパー代表を務める。

活動拠点であるクロスランド花壇で計画、苗の育成、維持管理に率先して取り組んでいる。

しみず のぶこ
清水 信子 (小矢部市)

平成 16 年にグリーンキーパーに就任して以来、21 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献しており、「野ざくの会」の副会長を務める。

活動拠点であるクロスランド花壇で計画、苗の育成、維持管理に率先して取り組んでいる。

あきもと すみこ
秋元 壽美子 (小矢部市)

平成 15 年に水島地方銀行の頭取に就任して以来、22 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である水島フラワーレーン花壇などでは維持管理を通じ、地域に貢献している。

きたむら ひさまさ
北村 久政 (南砺市)

平成 16 年に石黒地方銀行の頭取に就任して以来、21 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である石黒花ドリーム会花壇の計画、植栽、維持管理を行うなど、地域の緑化推進に尽力している。

はらだ あきこ
原田 秋子 (南砺市)

平成 15 年に皆葎地方銀行のグリーンキーパー、平成 19 年から令和 6 年までは頭取として活動、現在もグリーンキーパーとして活動し、22 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である上平小学校花壇で、率先して技術の指導を行い、地域の緑化活動に尽力している。

なかや まさと
中屋 正人 (南砺市)

平成 20 年に蓑谷地方銀行のグリーンキーパーに就任、平成 26 年からは頭取を務め、17 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である蓑谷交流センターほか 3 箇所の花壇で、計画、植栽から維持管理まで率先して行い、地域の緑化活動に尽力している。

かたやま まちこ
片山 真知子 (南砺市)

平成 21 年に井波地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、16 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

活動拠点である井波小学校に近いハ乙女花壇で、土づくり、植栽から維持管理まで率先して行い、地域の緑化活動に尽力している。

あんだ あけみ
按田 淳美 (上市町)

平成 26 年に相ノ木地方銀行の頭取に就任して以来、11 年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

活動拠点である「ふれあいガーデン」では花壇管理の指導を行うほか、これまでに得た知識や技術を活かし地域の緑化活動の推進に尽力している。

こんどう とみ
近藤 トミ (立山町)

平成 25 年に新川地方銀行のグリーンキーパーに就任して以来、12 年にわたり地域の花と緑の推進に貢献している。

立山北部小学校周辺の花壇を活動拠点にしており、花壇の植え込み、除草や水やりなど日々積極的に管理を行っている。

せぬま ただお
瀬沼 忠男 (朝日町)

平成 27 年に泊 3 区地方銀行の頭取に就任して以来、10 年にわたり地域の緑化活動の中心的役割を担っている。

活動拠点の沼保公園花壇と泊駅前花壇では、花苗の植え付けや水やり、除草など日々継続的に活動を行い、地域の緑化活動に尽力している。

団体の部

こうようこ うく すいしんきょううぎかい
光陽校区ふるさとづくり推進協議会 (富山市)

平成 26 年から長年にわたり児童生徒と協力しながら花壇等の整備に取り組んでおり、中でも 5 月に 4 年生とともにウォールプランターに花苗を植え、学校周辺に飾るなど、地域とともに、みどりに親しむ機会を創出している。

くればほんまちちょうじゅかい
呉羽本町長寿会 (富山市)

昭和 39 年から長年にわたり県道 44 号線沿いに花壇を造成し、行きかう通行者に花と緑にふれあう機会を提供している。

また呉羽本町公園の花壇の管理や除草など、地域の緑化に尽力している。

たんぼじまじ ち かい
反保島自治会 (高岡市)

昭和 53 年の発足以来、47 年にわたり集落センター前で花壇づくりを実施している。

自治会主体で植え付けと維持管理を行い、地域の連帯感の向上に努めている。

また、花と緑に関する市のコンクールへも積極的に参加している。

つねくに じ ち かい
常国自治会 (高岡市)

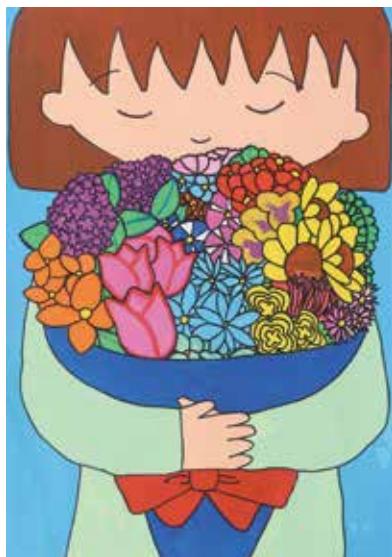
平成 5 年の発足以来、32 年にわたり常国花壇の管理に熱心に取り組み、地域の緑化に貢献している。

また、花と緑に関する高岡市中田地区のコンクールへも積極的に参加している。

IV 花と緑のコンクール表彰

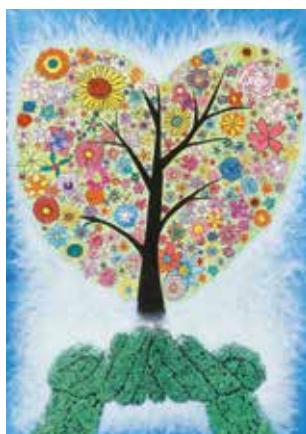
1 花と緑のポスター原画コンクール

最優秀賞



黒部市立明峰中学校 1年
沖村 優花

優秀賞



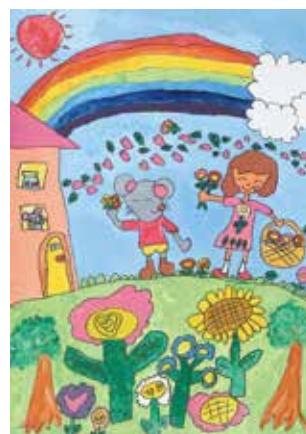
片山学園中学校 1年
林 芭奈

優秀賞



南砺市立吉江中学校 1年
井口 愛梨

優秀賞

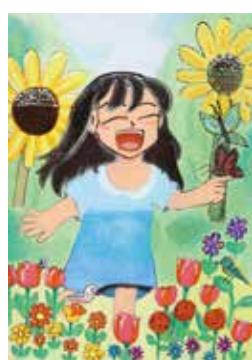


入善町立入善小学校 2年
佐藤 希咲

優良賞



富山市立立山室中学校 2年
北森 心乃美



富山市立鶴坂小学校 4年
林 彩空



黒部市立清明中学校 3年
石田 紗里奈



富山県立富山北部高等学校 1年
恒田 遥音



滑川市立寺家小学校 5年
朝野 凜

総評

今年も大変な猛暑の影響か、応募総数が2,308点、昨年より554点減少しましたが、それぞれ花に対する気持ちが溢れた秀作が多く集まりました。描画力が素晴らしい作品が多数ありましたが、これからはポスターとしての役割を考慮して制作されることを望みます。

最優秀賞評

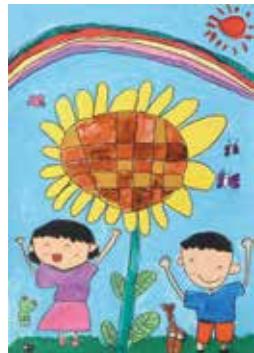
最優秀賞を受賞した黒部市立明峰中学校 1年の沖村優花さんの作品は、大胆で明快な構図、色数を抑えてあるだけに遠目でも分かりやすくポスターとして力強さがあり、顔の表情と花束の関係が今年の標語ともマッチしていて、好感の持てる良い作品になっていると思います。(審査委員長 越谷なつみ)



氷見市立南部中学校 3年
谷村 優月



佳 作



入善町立飯野小学校 1年
富永 純未



黒部市立生地小学校 1年
住吉 和穂



富山市立宮野小学校 1年
下村 知暉



富山市立大沢野小学校 2年
新海 葵



射水市立新湊放生津小学校 2年
根来 茉奈



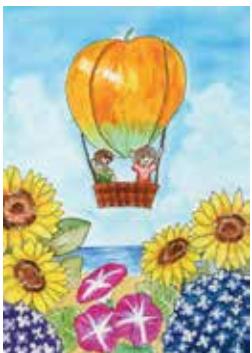
射水市立大島小学校 2年
鈴木 さら



南砺市立井波小学校 2年
高橋 柚乃



上市町立相ノ木小学校 3年
成瀬 縪香



富山市立豊田小学校 3年
佐伯 空音



富山市立鶴坂小学校 3年
沓掛 直



富山市立朝日小学校 3年
宇津 詩織



高岡市立成美小学校 3年
津田 紘太



氷見市立窪小学校 3年
西川 梓



小矢部市立石動小学校 3年
倉田 千星



富山市立藤ノ木小学校 4年
月山 依茉



富山市立芝園小学校 4年
横山 千紘



高岡市立木津小学校 4年
圓佛 みなみ



高岡市立木津小学校 4年
中出 紡希



高岡市立木津小学校 4年
堀井 想愛



滑川市立東部小学校 5年
鷹休 駢

佳 作



滑川市立西部小学校 5年
砂原 夏菜



富山市立芝園小学校 5年
高林 航大



射水市立大島小学校 5年
二橋 亜由



立山町立金ヶ瀬小学校 6年
林 咲柚希



射水市立大島小学校 6年
末松 七星



高岡市立牧野小学校 6年
岡野 由奈



南砺市立福光中部小学校 6年
池田 優月



入善町立入善中学校 1年
小林 夕乃



黒部市立明峰中学校 1年
中村 結咲



高岡市立戸出中学校 1年
澤田 侑樹



南砺市立吉江中学校 1年
辻 真向琉



南砺市立吉江中学校 1年
吉田 葉那



片山学園中学校 1年
赤江 彩羽



入善町立入善中学校 2年
小山 陽葵



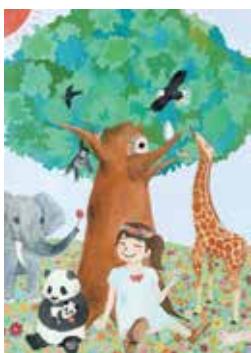
黒部市立清明中学校 2年
北島 直哉



高岡市立高岡西部中学校 2年
早川 すず花



富山市立大沢野中学校 3年
杉川 茉鈴



氷見市立北部中学校 3年
前田 あづさ



南砺市立吉江中学校 3年
吉田 有里



富山県立富山北部高等学校 1年
松田 悠莉

2 花と緑の標語コンクール

最優秀賞

みずやりは おはなとかいわ たのしむじかん

氷見市立上庄小学校 1年 栗屋 太陽

優秀賞

道端に 小さい命 凜と咲く
あさがおと いっしょにのびる ぼくのゆめ
朝日浴び 元気をくれる 花の道

入善町立入善中学校 3年 幅下 奈津
氷見市立上庄小学校 1年 堂田 祥矢
富山市立水橋中学校 2年 武田 陸真

優良賞

ばあちゃんが そだてた花に 「行ってきます」
育てよう 小さなこの手に 緑の未来
すずしいな てんねんクーラー 森の中
下校中 道ばたの花に はげまされ
通学路 さいてる花で わかる季節
花ひらき 自然とひらく 心のとびら

朝日町立さみさと小学校 3年 米丘虎之介
朝日町立さみさと小学校 4年 永井ひかる
氷見市立比美乃江小学校 4年 椿原 和香
氷見市立朝日丘小学校 5年 布施 翔貴
氷見市立比美乃江小学校 5年 岩上 楓真
小矢部市立大谷中学校 3年 荒木さくら

佳作

小さな手で みどりをそだてて みらいをつくる
ひまわりは わたしの中の 元気じるし
まちじゅうに 花と緑の オーケストラ
すてきだな 花のさく町 笑顔のさく町
花たちが あいさつうんどう おでむかえ
小さな芽 育ててつなぐ 豊かな未来
小さな花も 共に生きる 明るい未来
花植えて みんなに笑顔の 花がさく
草花に 元気をもらった 帰り道
登下校 笑顔あふれる 花の道
花が咲き 笑顔咲くこの 街が好き
四季の花 心安らぐ 地域の花壇

氷見市立十二町小学校 2年 中山 翔太
氷見市立十二町小学校 2年 山本 恵舞
氷見市立上庄小学校 3年 栗屋 朝陽
朝日町立さみさと小学校 4年 野末 朋実
朝日町立あさひ野小学校 4年 上不 瑞聖
朝日町立さみさと小学校 6年 酒井 楓
氷見市立朝日丘小学校 6年 屋敷 奈緒
氷見市立比美乃江小学校 6年 竹 葵唯
入善町立入善中学校 1年 角屋 縁
富山市立水橋中学校 2年 岩田 莉亞
富山市立水橋中学校 2年 武石 瑠花
射水市立新湊南部中学校 2年 田畠 美桜

総評

寄せられた多くの作品から、人々に安らぎや元気をあたえてくれる花や緑の魅力が読む人の心に届きます。豊かな発想や言葉の響きなど、小中学生のみずみずしい感覚にも驚きます。

これからも自然や人の心の動きなどをよく見つめ、感じたことを表現してみましょう。メモをしたり口にしたりしてみると、思いがはっきりしてきます。自分が周囲の人やものから様々に支えられていることに気付くことができます。

そのことは、自分が前に進む大きな力になってくれます。



最優秀賞評

氷見市立上庄小学校 1年 栗屋 太陽さんの作品は、水やりの中で一本一本の花の変化を目ざとく見つけ、その成長を認め励ますように声を掛ける様子が目に浮かびます。花もその願いにこたえてくれるに違いありません。

上手に花や野菜を育てる人は声掛けをよくすると言われます。楽しんで世話をしていることが読み手に伝わってきて、ほのぼのとした気持ちにしてくれます。

(審査委員長 山本 晶)

3 富山県花のまちづくりコンクール

(1) プレミアム花壇

最優秀賞



射水市 小杉花作り同好会

優秀賞



南砺市 玉成花壇愛好会



射水市 市井コミュニティー花壇



富山市 寺崎 啓乃



砺波市 東野尻花と緑の推進協議会



小矢部市 野ぎくの会

優 良 賞



富山市 新庄北小学校&地域団体

総 評

審査は、7月28日に行いました。

酷暑の中、現地審査に行くと、夏の花々が彩り良く元気に咲き、葉の色も濃く、草勢が良く栽培管理が大変行き届いていることが分かりました。そこには適期播種、土づくり、品種選定と組み合わせ、適期植栽、灌水等、長年の経験や栽培管理技術やノウハウがあつてのことと感じました。活動により、夏場でも花壇を通して地域との交流が工夫して行われていました。

プレミアム花壇を参考にされる数多くの方に対して、「毒のない植物」「高温や乾燥に強い植物」「生態系に影響を及ぼさない植物」を選ぶことを意識して、お勧めできる植物を選んでいただきたいと思います。



最優秀賞評

射水市の「小杉花作り同好会」の花壇が4年連続最優秀賞を受賞しました。花壇の素晴らしさはもちろんのこと、地域の幼稚園児、デイサービス利用者などと連携し、種ダンゴ作りから植栽まで行う「ポケット花壇」と称した参加型花壇の取り組みも評価され、区画ごとに違う草花に変化がありました。

メイン花壇は広い面積を活用して、背面に草丈の高い樹木や宿根草のほかカラーリーフや高低差のある一年草を植栽してありました。全ての草花の開花が揃い、花色と草丈のバランスが見事で立体的に見ごたえのある花壇でした。道行く車でさえ、つい目を引かれる美しい花壇は圧巻でした。灌水や花がら摘みなど日々の管理も徹底され、担当されている皆さんの熱意を感じられました。

(審査委員長 舘 瞳美)

〈令和7年度花と緑のコンクール審査員〉

○第51回花と緑の標語コンクール

山本 晶 立田ひろみ 黒田 哲也 木原 和夫 磯 孝行 荒川 克弘

○第53回花と緑のスター原画コンクール

越谷なつみ 米田 雪子 広井 優子 黒田 哲也 木原 和夫 磯 孝行 荒川 克弘

○第52回富山県花のまちづくりコンクール

藤井 謙二	西村 幸芳	広井 優子	柴崎 英樹	古市 幸子	館 瞳美	中田 政司
十二町 薫	野嶽 昌士	石黒 哲也	大原 隆明	川崎 弘美	伊藤 志朗	山本 良孝
高橋 一臣	石崎 弥佳	橋本 匡史	磯 孝行	荒川 克弘	(順不同)	

(2) 一般花壇

最優秀賞



入善町 花と緑の銀行入善支店 樽山地方銀行

優秀賞



小矢部市 北蟹谷花と緑の友の会



上市町 花と緑の銀行上市支店



射水市 橋下条花壇づくり同好会



高岡市 高岡市立醍醐公民館
花と緑の推進部会



砺波市 般若緑花推進協議会

優 良 賞



砺波市 東山見地区緑化推進協議会



南砺市 北部花緑愛好会



高岡市 小勢緑化推進委員会



富山市 三郷フラワー愛好会&三成小学校三年生



南砺市 広瀬館花と緑の楽園

奨 励 賞



富山市 合口用水とビオトープを守る会



小矢部市 アサガオと花の公園づくり



入善町 花と緑の銀行入善支店鶴野地方銀行



氷見市 余川ふれあい花壇

総 評

審査は8月4日、5日の2日間、最高気温39.8℃の記録的酷暑の中で行いました。

今年は連日の異常高温と少雨にもかかわらず、これまで以上に元気が良く、色鮮やかな花壇が多く見られました。頭取さんやグリーンキーパーさん、更に、ご協力いただいた多くの方々の大変なご努力のおかげと心から感謝申し上げます。

特に、水管理にご苦労が多く、早朝や夕方の涼しい時間を活用して、細かいメンバー編成のもと、じっくりと時間をかけて株元の土にたっぷりと水を浸み込ませたと聞きました。

デザインにおいても新しいチャレンジが見られました。大きくなり過ぎた花木をすっきりと整理して雄大な景色を取り込むことによって、広がりのあるダイナミックな花壇に変身させたり、樽プランターからこぼれ落ちる花の流れを表現したり、ボートいっぱいに溢れるほどの花々を咲かせるなど、個性的で多種多様な花壇を楽しませていただきました。

さらに、今年は2つの素晴らしい活動が印象に残りました。1点目は、年々高齢化が進み参加者の減少が懸念される中、親子寄せ植え教室が盛況だったり、総合学習の一環として花壇活動が活用されたり、小さな子供連れで花壇作業に参加される事例も見られ、幅広い世代が花壇づくりに取り組む動きが感じられました。

2点目は、県東部の活躍が目立ったことです。従来から実力を発揮している地域の花壇はデザインを一新するなど、格段のレベルアップが見られました。さらに、メンバーが育てた苗を持ち寄ったり、可愛いオブジェを配置したり、好みの草花を毎年追加して長い年月をかけて花壇の完成を目指すなど、楽しい花壇づくりが見られました。

50年を超える本県の花のまちづくり活動の積み重ねのもと、新しい活動のきざしが感じられるコンクールでした。

最優秀賞評

最優秀賞を受賞した入善町の「花と緑の銀行 入善支店 桜山地方銀行」の花壇は、花木を中心として周辺を円形に配置された花壇に、一年草と宿根草がバランス良く植え付けられていました。2年間かけてしっかりと腐熟させた堆肥が利用されており、どの花も生育が旺盛で色鮮やか、さらに、色の組み合わせが明確に分かるように高さも揃えられていました。宿根草は一年草に影響しないように地上部は的確に切り戻され、地下部は波板を入れて根域が制限されていました。特に目を引いたのは30cmほどに整えられたワイヤープランツによるフワフワの縁飾りでした。花壇のデザインが明確に見られるように、春先にしっかりと刈り込んで、形を整えたそうです。

22年間の活動の集大成が感じられる、気品の高い花壇に仕上がってきました。（審査委員長 山本良孝）

努 力 賞



朝日町 朝日町文化体育センター



魚津市 みらパークコミュニティガーデン俱楽部

(3) 花の道

最優秀賞



富山市 興南中学校教育後援会＆生徒会美化実践部

優秀賞



高岡市 立野栄町花づくり会



高岡市 下伏間江地域環境保全委員会



富山市 大沢野上大久保地区
花いっぱいグループ



南砺市 南部第六福寿会

優 良 賞



砺波市
高波花と緑の推進協議会



射水市
フラワーロード土田自治会



射水市
櫛田の里 Flower Road



砺波市
太田福寿会



南砺市
東太美心安らぐ花の道

奨 励 賞



氷見市
柳田活性化推進連絡会

総 評

7月県内記録的少雨、猛暑の中で、皆さんにはよくぞ花を咲かせ、地域に癒しと潤いを与えていただきました。感謝申し上げます。暑さと乾燥により思うように育たず、毎日、大変なご苦労があったと思います。

①暑さ対策としても、もっと宿根草に頼ってみては、ボリューム感とリズム感の創出にもつながるのでは、②一年草では乾燥に強いマツバボタン系を活用しては、ジニア、ベゴニアなどは暑さ渴水に弱い、③地域一体となった取り組み（高波、立野栄町、下伏間江ら）、少人数での20年以上にわたる取り組み（東太美、上大久保ら）、砂漠のような砂地（柳田）・プランターのみ（土田、立野栄町）での大きな花の道創出がスゴイなど、さまざまな感想を持ちました。

お世話している人が元気で、お花も元気をもらい、そしてお花から皆さんも元気を返してもらっているんですね。そうやって人も地域も元気になっていけたらな、来年は少しでも好条件で皆さんのがお世話できればなどと祈るばかりです。



最優秀賞評

富山市の「興南中学校教育後援会＆生徒会美化実践部」が、初の最優秀賞となりました。生徒さんとPTA、地域の皆さんらが三位一体で取り組まれ、人の関わりがすごくいい感じの花の道です。

全体を3基調（暖系、青系、その他）に統一、校章（創造・敬愛・不撓）を3花種でプランターに表現、フェンス・側溝際など地点に合わせた花種配置（ひまわり、サルビア、コリウス等）など、様々な工夫が溢れています。

なによりも、見た瞬間「あ、清潔な感じがして気持ちがいいな、なんか奇麗だな」と清潔感の満ちた癒しの花壇でした。「ゲームより花が好き」との生徒さんのつぶやきに、うれしくなりました。

（審査委員長 石黒哲也）

(4) 学校花壇

最優秀賞



高岡市 成美小学校

優秀賞



黒部市 石田小学校



黒部市 若栗小学校



氷見市 湖南小学校



射水市 作道小学校

優 良 賞



高岡市 南条小学校



富山市 三成小学校



黒部市 宇奈月小学校



射水市 金山保育園

奨 励 賞



入善町 飯野小学校



砺波市 庄東小学校

総 評

今年度はかつてない酷暑で、動植物にとって危険な暑さが続いています。その中で除草や水やりに、粘り強く取り組んでいる児童や教職員の皆様、さらには地域のグリーンキーパーやボランティアの皆様のご協力を強く感じました。また、花がらつみや土壤の改善に苦心して様々な手法を試みたり、花壇の管理に工夫・努力しておられたりすることが伝わりました。

何より、花壇をデザインするに当たり、自分たちでテーマを考え、ストーリーを作り、それを目標に日々世話をしていることが伝わりました。地域の方々がちょっと立ち寄って憩う、「地域の花壇」として役立っています。花壇担当の委員会が中心になって学年の花壇として管理する一方、保護者や地域の方々の協力で改良・継続しながら、それぞれの花壇に愛着と誇りを感じ、楽しんで世話をしていることが伝わってきました。

さあ、夏はこれからが本番。夏休みの水やりをどんな形で継続していくかが課題と思われます。児童や教職員だけでは回り切れなければ地域の皆様方のお力を借りることや、簡易な灌水装置を設置するなどの思い切った決断を迫られるかもしれませんね。

最優秀賞評

昨年に続き今年も最優秀賞に選ばれた成美小学校は、50年以上児童と保護者、地域が一丸となって「花のパノラマ構想」を展開しています。「児童主体の花壇」を支えリードする栽培委員会のメンバーは、テーマ、デザインの決定後、花苗の選定や植え込み作業、日常の世話、全校児童への放送による呼びかけなどに継続して取り組んでいます。花苗の数や花壇づくりに投入する予算の大きさは群を抜いています。今年は各学年が自分たちの干支に注目し、特性を表す花やその花の花言葉を意識して花壇づくりに努力したと言います。自分や友達を大事にする気持ちが醸成されていく、自分づくりの花壇作りかと感心させられました。

(審査委員長 古市幸子)



VIII 花と緑の講演会

「健康寿命を延ばす植物とのかかわり方」

神戸学院大学 現代社会学部 現代社会学科

講師 菊川 裕幸

1 人が自然や植物を好きになる理由

ふとした時に眺めた自然の景観、花壇に植栽されている草花、河原に生い茂っている野草、こうした身近にある自然に心が和んだ瞬間は、誰にでもあるのではないか。私たちの身の周りには当たり前に自然が存在し、その恩恵を知らないうちに受けている。こうした人間と植物の関係を述べるうえで、避けて通れないのが Kellert・Wilson (1993) が提唱した「すべての人は自然や生き物との結びつきを求める」というバイオフィリア（生命愛）仮説である。近年の研究では、植物を 3 分間眺める Nature Break が職場でのストレスを下げる（Toyoda ら, 2020）や園芸活動が認知症予防につながるなど、様々な効果が報告されている。写真は著者が実際に実施した、自然に囲まれた場所での園芸活動の様子。



2 農業・園芸の可能性～園芸療法の可能性～

皆さんは園芸療法と聞いてどのような印象を抱くだろうか。園芸療法についてはいくつかの考え方があるが、田崎（2006）は園芸療法について、1) 植物そのものや植物の育つ環境、2) 植物の生育過程に関わる園芸活動、3) 植物を利用する活動、を媒体として医療的・福祉的な援助を必要とする人たちを対象に、身体的・精神的・社会的・教育的に良い状態に導き、維持し、生活の質の向上を目指す療法と述べている。豊田（2020）は、人が心地よいと感じる緑の景観・植物・園芸活動がストレスを軽減するという特徴を活かして、継続的に自然や植物と関わる生活を通して、精神機能・身体機能・社会性の回復や維持を目指す療法と定義している。すなわち、人間にとって農園芸活動は心身ともに良い影響を及ぼし、その技法を適切に使用できるのが園芸療法士であるといえる。そして何より、園芸療法は「対象を選ばない」という最大のメリットがある（図 1）。園芸療法の対象者は実に多様である。発達障害や知的能力障害のある人、特別支援学校の児童・生徒、身体や精神に障害のある高齢者、認知症と診断された高齢者、精神疾患のある人などこれまでの実践事例をみても、対象年齢、疾患などは多岐にわたる。

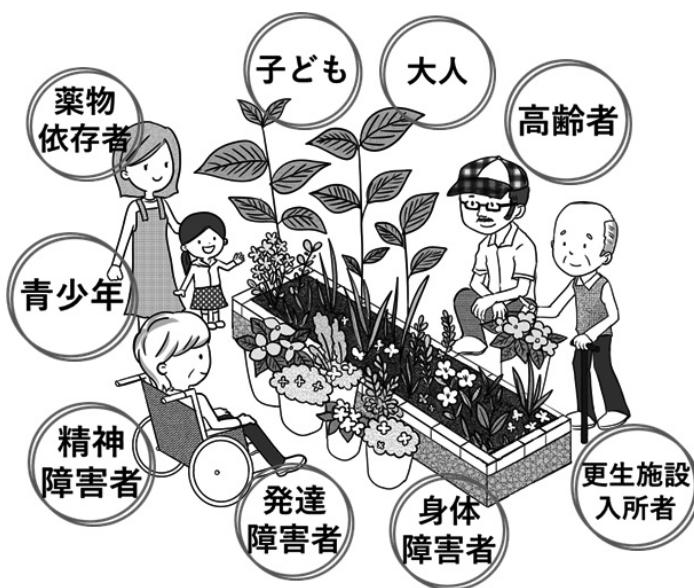
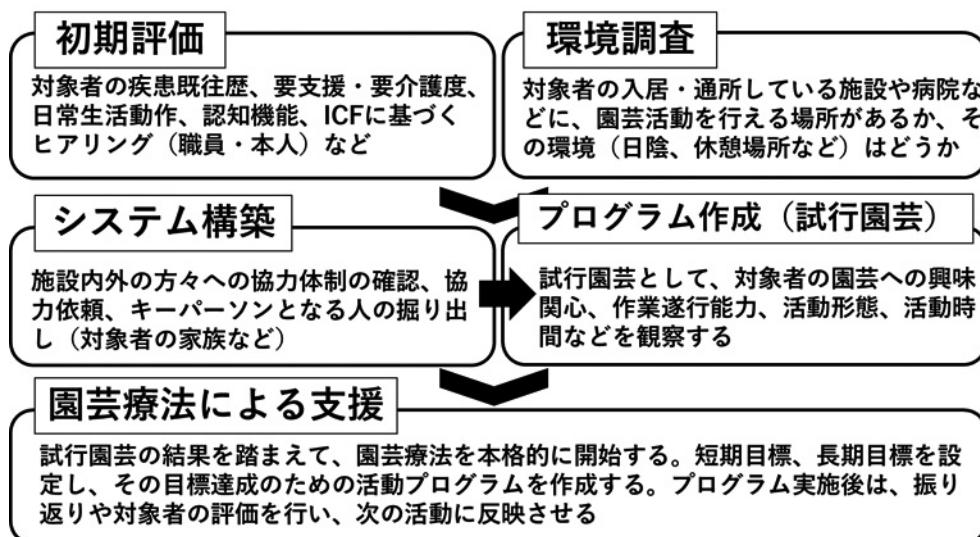


図 1 園芸療法は対象を選ばない

そのため、園芸療法士は図2のように実際に詳細に対象者に寄り添い、小さな一歩を歩んでいくのである。



3 広がりを見せる農園芸の社会実装～農福連携の可能性～

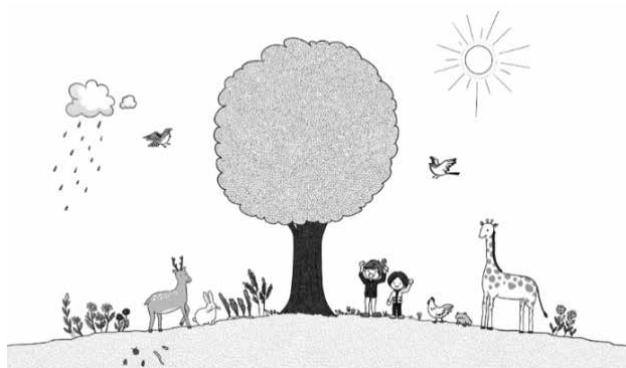
農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取り組みであり、「農業・農村における課題」、「福祉（障害者等）における課題」、双方の課題解決と利益（メリット）があるWin-Winの取り組みとされている（農林水産省, 2023）。近年農福連携を行っている事業所の数は増加傾向にあり、農林水産省（2019）の調査では、農福連携に取り組む農業経営体の76%が「障害者を受け入れて貴重な人材となった」と認識し、78%が5年前と比較して年間売上が増加と回答している。障害者にとっての影響として、79%が「利用者の体力がついて長い時間働けるようになった」、62%が「利用者の表情が明るくなった」、74%が過去5年間の賃金・工賃が増加と回答するなど、その成果は着実になりつつある。

4 これからの植物と人間のお付き合い

自然や植物といったみどりは、人間にとって必要不可欠であり、私たちの心身を癒してくれる重要な存在であることを知っていただけただろうか。バイオフィリア仮説にあるように、人は生まれながら自然を求め、自然を必要としている。近年では身近にみどりのある環境が重要視されるようになり、都市緑化やオフィス緑化が増加し、人と自然の結びつきが強まっている。

世界で最もみどりが豊かな都市となったシンガポールでは、バイオフィリック都市として舵取りを始めている。たくさんの自生種の植栽を行う植物園やコミュニティーガーデンが多面的な機能を発揮しているのである。日本でも同様の取り組みは行われており、今後私たちの周りにみどりが置かれる環境づくりは加速していくのではないだろうか。

最後に、現代社会を生きる私たちは多かれ少なかれストレスに曝されている。仕事で疲れた時、対人関係で疲れた時、ふとした時に眺めると私たちを癒してくれる、そんな植物を大切に想ってほしいと願い、締めくくりとする。



◆ 令和7年度

富山県花と緑のコンクール入賞作品展

«第1回»

とき 令和7年12月9日（火）～12月24日（水）

ところ 富山県中央植物園 サンライトホール

«第2回»

とき 令和8年2月20日（金）～3月1日（日）

ところ 富山市婦中町 フューチャーシティ ファボーレ



はなぴー

◆ 令和7年度

花とみどり・ふれあいフェア

とき 令和8年2月28日（土）～3月1日（日）

ところ 富山市婦中町 フューチャーシティ ファボーレ



令和6年度 花とみどり・ふれあいフェア



公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山市婦中町上巻田 42
TEL 076-466-2425 FAX 076-465-5923
<https://www.bgtym.org/fgbank/>

花と緑の銀行だより 237号
～第53回花と緑の大会大会誌～
発行日 令和7年(2025)11月